

平成29年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園

A：よく出来ている、 B：まあまあ出来ている、 C：あまり出来ていない、 D：出来ていない

I 保育の計画性

		A評価	B評価	C評価	D評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	0%	100%	0%	0%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	0%	88.2%	11.8%	0%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	0%	93.8%	6.2%	0%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	5.6%	77.8%	16.6%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	5.6%	77.8%	16.6%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	25.0%	68.8%	6.2%	0%
	幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする	12.5%	81.3%	6.2%	0%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	12.5%	75.0%	12.5%	0%

「園の教育方針等の理解」の項目では、「よく出来ている」（以下、「A評価」という。）と「まあまあ出来ている」（以下、「B評価」という。）のうち、全員が「B評価」となり前年より改善された。引き続き、「A評価」の割合を高めていけるよう努力を重ねていく。「教育課程の編成」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて88.2%ながら前年より6ポイント減となり、「指導計画の作成」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて93.8%となり6ポイント合計が上がった。一方で「あまり出来ていない」（以下、「C評価」という。）と答えているものがあることから、こうした職員への指導・支援体制をしっかりと行っていく必要がある。

また、「環境の構成」の項目では、幼児の主体性や発達を考慮して保育環境を構成していると自己評価した者は「A評価」と「B評価」を合わせてその平均は約89%で、前年より約5ポイント上がった。ただ、「C評価」と自己評価した者も平均11%程おり、今後は環境の構成について研究を重ねて「A評価」を目指して努力していく必要がある。「評価・反省」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて87.5%であり、前年より約6ポイント上がり「A評価」の割合も上がったが、「環境の構成」の項目同様、今後は「A評価」を目指して更に努力を重ねていく必要がある。

II 保育のあり方、幼児への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
健康と安全への配慮	園内に危険な個所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	11.8%	82.4%	5.8%	0%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	27.8%	72.2%	0%	0%
幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	5.9%	94.1%	0%	0%
	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	5.9%	94.1%	0%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	23.5%	70.6%	5.9%	0%
指導との関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	17.6%	76.5%	5.9%	0%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	35.3%	58.8%	5.9%	0%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	17.6%	76.5%	5.9%	0%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	11.8%	82.4%	5.8%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	47.1%	52.9%	0%	0%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	35.3%	58.8%	5.9%	0%

「健康と安全への配慮」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均97%であり、前年よりも3ポイント上がった。「健康と安全への取組」は職員の意識にもかなり浸透していることが窺える。今後も、より園内の清掃や整理整頓は徹底していきたい。

また、「幼児理解」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均98%であり、前年よりも7ポイント上がった。教職員は幼児理解の重要性を感じて努力しているものと思われる。一方で、「C評価」と自己評価した者への指導・支援体制を引き続き整え改善していかなければならない。

「指導との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均94%であり、幼児への関わりを重視しながら保育に当たっていることが窺えるが、前年より「C評価」が3ポイント増加した。「保育者同士の協力・連携」の項目では、「クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がけているか」の問いは、「A評価」と「B評価」を合わせて100%となり、前年より12ポイント上がるとともに「A評価」の割合も18ポイント増加した。「幼児について保育者同士で話し合い、共通理解を図っているか」の問いには「A評価」と「B評価」を合わせて94%であり、教職員全体で協力・連携体制が取れていることが窺える。その上で、「B評価」の割合が高いことから、今後は「A評価」を目指して努力を重ねていく必要がある。

Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	18.8%	81.2%	0%	0%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	43.8%	56.2%	0%	0%
要望等への処理の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	18.8%	81.2%	0%	0%

「情報の発信と受信」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて100%であり、保護者からの相談や要望にはよく話を聞くよう心がけていると思われる。また、「対応上の心がまえ」の項目でも、「A評価」と「B評価」を合わせて100%となり前年より6ポイント上がった。保護者からの依頼や伝言にはきちんと対応するように心がけていることが窺える。

さらに「要望等への処理の仕方」の項目でも、「A評価」と「B評価」を合わせて100%であり、要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解した上で対処していることが窺える。今後は「A評価」の割合を高めていけるよう心掛けていかなければならない。

Ⅳ 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	0%	60.0%	33.3%	6.7%
小学校との連携	地域の小学校の行事や公開授業に参加するよう努める	0%	30.0%	40.0%	30.0%
子育て支援と地域への開放	子育ての支援や地域への開放に努めている	0%	57.2%	21.4%	21.4%

「地域・自然・人々との関わり」の項目では、一昨年は「B評価」53%、「C評価」と「D評価」を合わせて47%であったところから、前年は「A評価」と「B評価」を合わせて71%へと向上し、本年は「B評価」60%、「C評価」と「D評価」を合わせて40%と一昨年の数値に近づいてしまった。自己評価の内容から、園外へ出掛けることの有無が評価の基準になっていることが伺えるため、園外保育に係わらず地域・自然・人々との関わりについて意識を高めていきたい。

また、「小学校との連携」の項目でも、前年は「B評価」が35%、「C評価」・「D評価」と答えた者は合わせて65%と小学校との連携は担当学年によって左右されることが窺えたが、本年も「B評価」が30%で概ね同様であった。「子育て支援と地域への開放」の項目では、前年の「A評価」・「B評価」の合計が47%、「C評価」・「D評価」が合計53%であったところから、本年は「A評価」・「B評価」を合わせて57%へと10ポイント向上した。子育て支援や地域への園開放に携わる教職員は特定のものに限られているとの意識から、捉え方が少し変化してきたことが窺える。

今後も、更に子育て支援の充実と地域との連携をより図るため、地域や自然や社会との関わりを教職員全体で考えていく必要がある。

V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への 意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	12.4%	68.8%	18.8%	0%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	25.0%	62.5%	12.5%	0%

「**研修・研究への意欲・態度**」の項目では、「研修会や研究会には自己の課題をもって参加しているか」の問いに「A評価」と「B評価」と答えた者は前年より22ポイント増加した。本年は、東海北陸地区私立幼稚園教育研究大会において発表の機会があり、園内での研修を深める事ができたことが伺える。今後も、研修会・研究会に参加する機会の確保またその体制作りにも努めていく必要がある。

また、「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには「A評価」と「B評価」と答えた者は前年より約12%増加し、年々向上していることが伺える。教職員間の相談体制の充実に一層努めていく必要がある。

平成29年度 教職員の自己評価について の良かった点及び改善点

I 保育の計画性

- ・ 日案や週案は見通しを持って計画しているが、クラス担任が常時そろっている日があまりないことで、予定通り進めることが難しい日が多く困ることがあった。
- ・ その月、週毎の子ども達（クラス及び学年）の様子を踏まえて計画を立てることができた。しかし、そのような中でも一日が慌しくなったり、活動内容に子どもたちがついてこれない日もあった。見通しをしっかりとっていきたい。
- ・ 全体を通して、計画性を持って立案する事がなかなか難しかった。
- ・ 環境の構成については、子どもたちが様々な遊びに興味を持てるように工夫した。
- ・ 毎日の反省を書くことで、次の日の保育について考えることができたり、今後の保育に活かしていると思う。
- ・ クラスによりカラーがあり、全クラスが同じ目標を持ち進めていくことが難しかった。そのため、日々の保育終了後、各担任と意見交換し、それぞれのクラスの苦手な部分、よくできた部分を話し合い、次回の保育に役立つようにした。
- ・ 行事や活動を考え、先を見通して計画を立てている。ただ、行事のための保育になっていることがあるので、一呼吸をおいて考えていく必要がある。
- ・ 学年で月案や週案を立てることで幼児の行動や様子は予め予想できていたが、思いもよらない出来事に速やかに対応できたかと言うと、そうでもない部分もあったと思う。これからは、そのような出来事にも適切に対応、対処していけるよう努めていく。
- ・ 発達から保育を計画していけるよう、常に発達を考えながら行動できるようにしていきたい。
- ・ 季節に合わせた計画、年齢に応じた計画を立てるように心掛けた。子ども達が、心から笑顔になり、楽しいと思える経験をさせてあげたい。
- ・ 幼児期にふさわしい生活を展開できるように計画を立てるが、行事が中心になってくると遊びこめる時間が少なくなったので、行事のない時は、楽しい雰囲気の中で安心して遊んだり過ごしたりできる時間を作るようにした。
- ・ 指導計画、週誌が遅くなってしまったこともあるので、反省している。今後、しっかりと計画し提出していきたい。計画を立てることにより、子どもの姿や発達などがより感じられ、見通しをもてるようになった。
- ・ 学年全体での製作では、保育者同士できちんと伝達できておらず、内容がクラスにより少し異なってしまうことがあった。しっかり話し合い、学年で統一していけるようにする必要がある。
- ・ 運動会の練習や発表会の練習において、日々どこに重点をおいて指導していくのかを他の先生方に助けて頂きながら進めていくようにした。今後は、どのように指導していくのかを自ら考えていくようにする。
- ・ 月案や週案等により保育の計画を立てることで、ある程度の子どもの姿について予測をしているため、個々に応じて援助を行っていくことができたと思う。一方で、子どもの姿についての自分自身の予測が甘く、想定外のことがあるとスムーズな対応、援助を行うことが難しいときがあったため、今後は保育の計画をより綿密に考えていく必要があると感じた。
- ・ 指導計画の作成は、なるべく早くするよう心掛け守ることができたと思う。その計画に向けて、取り掛かりや環境の構成について、時間を有効に使ったりすることができず、直前になってしまったり余裕を持てぬまま進まざるを得な

くなったりしたことを反省する。今後は、学期毎の行事や流れを把握し、計画的に進めて行こうと思う。

- ・余裕があり内容のある活動計画が必要だった。
- ・日頃の子どもの様子から、どんなものに興味があるのか、また、どんなものを準備すればやってみようと挑戦する気持ちが芽生えるのかなど、職員で話し合いどんどん新しい事を取り入れていく必要があると思う。

II 保育のあり方、幼児への対応について

- ・子ども達全員に同じように関わっているつもりでも、目立たない子、消極的な子に対して言葉を掛けたりできたことを褒めたりしながら、もう一度一人一人の子どもと向き合い、進級に向け安心して上の学年にいけるようサポートしていきたい。
- ・担任や担任以外の保育者同士のコミュニケーションは良くとれている方だと思う。子どもたち個々のその日の体調等については共通理解ができていた。かみつき、たたき、転倒が少しでも減るよう心掛けていきたい。進級当時、表情が硬かったり口数の少ない子ども達には、時間を掛けて関わりやスキンシップを増やすことで自分を出せるようになった子が増えて良かった。
- ・自分自身が未熟なため、これで良いのかという気持ちもまだあるが、次に活かせるよう試行錯誤を重ねながら対応前後で反省を行い、より良い保育を行えるよう心掛けている。
- ・支援が必要な子どもを、保育者と他の子ども達で助け合いながら保育を進めていくようにした。子ども達の話をしっかり聞いてあげられないことがあったので、もっと子ども達の思いを受け止めていくようにする。
- ・担当学年が初めてであったことから、子ども達に助けてもらうことが多くなってしまった。本来なら、自分が進んで遊んであげなければならない時に、待たせてしまうことが多かった。
- ・子どもの目線に合わせながら、楽しい時間は自分自身も存分に楽しむことを忘れずに取り組めた。
- ・毎日が単調な保育にならないように心掛け工夫してきたつもりだが、振り返ると季節の遊びを子ども達の年齢なりに楽しめるような工夫が必要だったと思う。個々の子ども達とは、毎日楽しく一緒に過ごすことができた。
- ・成長につれて、幼児同士の関わりも増えてトラブルになる場面もあったが、その中で人を思いやる気持ちが持てるよう仲立ちをし関わることで、一人一人成長できたと思う。複数担任であったが、クラス内の連携がしっかり取れ、共通理解を図れたので良かった。
- ・常に子どもと同じ目線で遊び、生活するよう心掛けているが、どうしても対応の難しい子どもに気が向いてしまいがちだったので気をつけたい。
- ・個々の発達を感じながら無理のない保育を目指していきたい。また、個々の発達を促すような刺激を与えたり意欲の出るような言葉をかけるよう努めていきたい。
- ・子ども達が生活しやすい環境を設定し、楽しく遊べる保育室を日頃から意識してきたつもりである。冬になり、暖房が入ると室内の加湿や空気の入替えを忘れてしまうことがあった。仕事や行事に忙しい時期には、多少なりとも感情的な注意の仕方になってしまったことを反省し、これからは適切な対応を心掛ける。
- ・子ども達一人一人、しっかりと見てその都度対応している。
- ・支援が必要な子どもには、日々の製作活動において他の子どもとは違う方法、例えば折り紙を折るときには予め折り線を入れておいたり折り線に黒く印を付けておいたりするなどの指導をした。そうすることで、他の子どもと同じ時間に出来上がり、本人も自分でできたという達成感が持てるようになって、次回新しい事に挑戦しようとする意欲につながった。
- ・子ども達の健康面や安全面に特に気を付けた。保育者同士の協力や連携は、学年で話し合っているため、しっかりと

きていたと思う。

- ・改めて“一人一人に向き合う保育”を心掛けた。どこまで向き合えたかは、定かでないが。
- ・支援が必要な子どもが多く、なるべく個々に合わせた言葉掛けや援助を行うように努めた。クラスや学年での活動になると個々に関わる時間がなかなか取れず難しさを感じた。
- ・時間の許す限り、元気いっぱい戸外で遊び、体力づくり、友達との関わり、園生活の楽しさ、自己発揮、自ら興味関心から気付き、が育めるよう努めた。また、子どもの姿や発達、興味にあった活動を取り入れ、様々な活動に楽しさが感じられるよう内容等を考慮した。

Ⅲ 保護者への対応について

- ・バス通園であまり直接会うことができない保護者には、連絡ノート等で園の様子を時々伝えるように努めたが、行事が立て込んでいるときには難しいことがあり反省する。
- ・登園は、園児を送って来られる家庭が多くあるが、降園はクラスの3分の2以上が預かり保育のため、一日の様子や気になることを話すことが難しかった。連絡ノートや登園時を利用して対応に努めた。
- ・日々、様々な対応をさせていただき、その都度、耳を傾け助言をさせていただいたつもりですが、どこまで相手の保護者にご理解いただけたかわかりません。
- ・お迎えの際には、子どもの様子を話すよう心掛けている。
- ・日々の送迎のときに家庭や園の様子を伝え合い子どもが進んで登園したくなるような接し方について話し合った。また、バス通園の子どもの連絡ノートには連絡事項だけでなく、その日に起きた楽しかったエピソードやできるようになったことを記入し、保護者の方の気持ちが安らぐような対応を心掛けた。
- ・様々なお考えの保護者がみえるので、園として対応をきちんとしていきたい。
- ・一人で判断することが難しい時は、学年主任に相談し対応するよう心掛けた。保護者の方の話には、しっかりと耳を傾けるよう努めてきたが、その中でも考えの食い違いなどもあり、対応の難しさを痛感した。今後は、どんな些細な問題でも一人では判断せず、学年で相談するなどしてから対応していきたい。
- ・普段の様子を送迎時にお話しすることで、保護者の方も安心して園にお子さんを預けることができると思うので、小さな成長もお話しするよう心掛けた。
- ・登降園時に、保護者の方と子どもの成長について話し合うことができた。これからも協力体制を密接にしていきたい。
- ・大きな苦情をいただくことがなかったので良かった。特に初めての子育てに不安を感じている保護者の方には、よく話をお聞きしたり、連絡ノートに丁寧に返事を記入したり安心していただけるよう対応した。
- ・連絡ノートや送迎時に個々にお話しする機会を意識的にもったことで、関係を作っていたように思う。ただ、発熱時に職場に連絡することが重なることで、どうしても不満が出たり保護者の方と保育者の思いや考えの違いがあったりということもあったので、対応の工夫や伝え方などに注意していきたい。
- ・前年度から担任していた子ども達が現在のクラスに多いので、保護者に対して子ども達の姿を詳しく知らせることができていたと思う。
- ・年長組は、保育室が2階に位置していることから保護者の方と接する機会が少なくなってしまうため、お話しする時間が短くなってしまう。
- ・子ども達の園での様子をできるだけ伝えるように心掛け、保護者の方からの質問に対して、わからないことはすぐに他の職員に確認してから回答するよう心掛けた。今後も引き続き、心掛けていく。
- ・自分自身で判断できない場合には、主任等に確認や相談することで自分なりにではあるが、対応できたのではないかと

と思う。しかし、言葉足らずな面もあるため、伝えたいことを確実に伝えられるようにしっかり努めるとともに気を付けていく。

- ・もう少し保護者の方と関わりを深めていくべきだった。
- ・保護者の方からの連絡事項はすぐにメモを取り、担任間で共有していけるよう心掛けた。深刻な内容については、主任にも対応してもらうことにより、保護者の方に納得してもらえるよう努めた。保護者の方への大事な連絡は、ノートではなく直接お話しするよう対応したが、クラスの子も達は早朝の登園で遅い時間の降園が多く、その日のうちにお話できないこともあったので、今後は連絡ノートももっと活用しながら対応していきたい。
- ・保護者からの質問や疑問に対して、園の方針に保育者の思いも含めて説明することで理解していただけたと思う。学年が上がると環境が異なることに不安を感じている保護者の方もみえるので、しっかり対応しコミュニケーションを図っていきたい。

IV 地域や自然や社会との関わり

- ・散歩などを通して季節の移り変わりを感じたり、地域の方と挨拶や会話をすることで社会との関わりはできたが、更に広げていけると良いと思う。
- ・幼稚園の行事に参加できる機会も多くあり、“びよびよくらぶ”や園庭開放を通して地域の方とのふれあいを持つことができた。園外保育では、公園を使う時のマナーやルールを伝えることができたと思う。
- ・秋には、どんぐりやまつぼっくり等が落ちている近くの公園に散歩に行く機会もあり、子ども達だけでなく自分自身も一緒に加わって自然に触れる機会が多かった。自然を通し季節を感じる事ができて良かった。
- ・花育を通して、子ども達がより花に興味や関心を持つ姿が見られるようになった。花の名前がわからない子が多かったので、花の種類がわかるようにしていくと良かった。
- ・小学校1年生との交流があり、子ども達自身が新1年生になるという期待を高められる良い機会になったと思う。
- ・地域との関わりは、今のところあまりできていないように感じるので、敬老の日に地域のおじいちゃんおばあちゃんに手紙を書いたり交流できる機会があっても良いと思う。
- ・散歩に出かけることが多く、見たり、肌で感じたり、自然と多く関わられたように思う。また、地域の方と挨拶を交わすことも多く、散歩を通して地域の方とも関わられた。
- ・園外へ散歩に出かける機会が増え、地域の方と出会うことで挨拶をしたり、会話をしたりすることで親しむことができた。
- ・地域の様子をもっと詳しく知ること、園として職員としてできることを考えていきたい。
- ・地域の小学生や中学生が園に来てくれた際に、たくさん触れ合うことができていたと思う。また、子育て支援“びよびよくらぶ”に来てくれた未就園のお友達とも園庭で関わりをもつことができた。これからも、このような活動を通して触れあいや関わりを持っていけるよう努めていきたい。
- ・園内での交流がもっともてるようにして、地域や社会へと繋がられると良いと思う。
- ・今年度もなかなか地域の関わりに参加することができなかった。
- ・園外保育や散歩などの活動を通して関わりをもつことがあったが、年少・年中児は園外に出ることも少ないため難しく思う。
- ・園に隣接する所有地に、さつまいも畑が造成できたので、つるさし後に途中経過を何度か見に行くことができた。秋には、すっかり育ったさつまいもの葉や“つる”の様子、虫食いのあとまで観察できた。
- ・学年の関係で地域の自然や社会との関わりはなかった。

V 研修と研究について

- ・あまり進んで研修に参加しなかったことを反省する。次年度は、もう少し参加できるように努めたい。
- ・本年は、特に“気になる子”への援助や指導について研修に参加でき、内容も充実していて勉強になった。
- ・支援の方が、いつも同じ方ではなく、もっと幅広い面でお掛けして来園していただけると良いと思う。
- ・本年度は、留守番が多く研修の機会が無かった。
- ・自分の保育のあり方や悩みについて、主任に相談することができている。また、学年一体で相談し保育の改善に努めている。
- ・幼児の打楽器の演奏方法について、全員が同じリズムを演奏するのではなく、それぞれの楽器の特徴を出せるような演奏方法を試みた。初めは、担当のリズムや演奏のタイミングがつかめなかったが、リズムを子ども達の耳慣れた言葉に当てはめてみたり、子ども達にわかりやすいように指揮してみたりすることで少しずつ演奏できるようになり、他の楽器にも興味を持ち、自分の担当以外の楽器のリズムも覚えることができてきた。他の楽器の音を聞きながら演奏することで合奏の楽しさを味わえるようになってきたのではないかと思う。
- ・研修、研究も大切に知識を深め広めていくことも大切である。その上で、実践も大切なので、日々の保育の中で様々な経験を積んでいく必要がある。
- ・研修では、自分なりにきちんとした態度で望めたと思う。また、研修の内容でわからない事は他の職員に聞いたりすることで、自分なりに理解を深められたと思う。今後も、研修は目的をしっかり持ち、出席していこうと考えている。
- ・研修に参加することで、考え方の幅が広がるように思う。今後の保育につなげていきたい。
- ・研修をさせてもらう中で、学びにつなげることができた。
- ・今年度は、2回研修会に参加できた。救急法は、すぐに園の職員に報告し、避難訓練も各クラスで実践した。アンガーマネジメントも、保育や生活の中で活用していきたい。そして、教育環境の改善につなげていきたい。
- ・今年度は、東海北陸地区私立幼稚園教育研究大会での事例発表の機会があり、大変ではあったが多くの職員に支援してもらえ、発表を通じて自分自身の保育を見直す良い機会となり感謝している。
- ・今年度も多くの研修に参加でき、保育者としてスキルアップが少しでもできたのではないかと感じている。研修は、今後も機会があれば積極的に参加していきたい。
- ・多くの研修を通して、これまで知らなかった事をたくさん知ることができたり、他園の様子を知ることができて良かった。
- ・様々な研修に参加でき、保育で実践しようとする、気を付けなければならないと自分を見直す、そして成長に繋がる機会となり、学ぶことがたくさんありました。また、多くのアドバイスを受けることで、自分の視野を少しずつ広げられるようになってきているのではないかと思う。今後も、研修を通して、より視野を広げ多くのことを吸収していきたい。
- ・何度か研修に参加でき、刺激を受けることができた。
- ・今年度はここまで研修に参加する機会が無かったので、今後機会があれば参加したい。経験豊富な保育者が多いので、園内で工夫やアイデアなど話したりアドバイスをもらいながら保育に活かせたと思う。これからも、様々な場面で相談したり、意見交換したりしていきたい。